

●テーマセッション(80 分)

「データサイエンスで大切な問題に取り組む」

◎中川功一（大阪大学大学院 経済学研究科 准教授）

松本陽一（神戸大学 経済経営研究所 准教授）

研究成果報告形式

〔 概 要 〕

本報告は、多量の良質なデータをどう揃えるか、日々更新されていく分析手法をどう用いて研究をするか、といった、「方法」に配慮をしながら行う、報告者たち自身が直近に取り組んでいる研究報告です。それ以上の工夫は一切ないのですが、その根底には、「方法は新しく」でも「心は忘れずに」という精神があります。

日本の経営学研究が特殊だとはよく言われますが、私たちはそこに良い側面と悪い側面があると考えています。良き側面は、現場の問題や悩みから目を背けないということです。それは、ときに純然たる科学に立脚できないという弱点にもなりますが、芸に遊ぶような研究よりは、大切な問題に取り組むことをよしとするのは、よき伝統ではないかと思うのです。

他方、悪い側面としては、「方法・作法」への関心がいくぶん低いという点があります。定量・定性を問わず、そうした「技」よりは、「問い」や「発見事実」に重きが置かれる傾向にあります。このことは、現代のデータサイエンスの急速な進化を考えると、私たちのアカデミーの深刻な弱点となる可能性があります。

かような問題意識から、「社会に寄り添い、問いを大切にする」という良き側面を維持しながら、「方法のアップデート」をはかっていきたい（はかり続けていきたい）と、このセッションを用意させてもらいました。

中川が行う報告は、クラウドファンディングの成否分析から、人々がどのような内容に社会的意義を感じ、資金を投じるのかを検討したものです。ウェブ上からスクレイピングによってデータを収集し、機械学習（トピックモデル）を用いてテキスト解析を行うという「方法」を用い、そこから人々の感じる社会性や共感の源泉がどこにあるのかを探っていきます。

松本が行う報告は、日本で「ダイナミック・シナジー」と呼ばれる、過去の資源蓄積で次の事業を育てるという異時点間のシナジーの有無と、その効果について検討するものです。大規模なパネルデータ、変数処理、モデリングといった統計処理のみならず、世界のアカデミーのなかでどうこの事象を理論的に説明するかも、ここで議論したい「方法」です。

〔 参加者へのメッセージ 〕

10月19日(土)10:30～11:50 開催(C会場:1-303)

当日はあまりこの論点を論ずるのだ、とは構えずに、研究の心技体いずれにも気楽な議論ができたかと願っています。

・「心」どんなことを問うていくのがよいか、という点について率直に考えられる仲間が得られたら幸せ

だなあ。

- ・「技」新しい方法に興味のある方にとっては、とりわけ楽しい発表になるのではないかと思います。機械学習やパネルデータ分析について興味がある方は、お気軽にテクニカルな質問をしてください。
- ・「体」やっぱりこれですね。自分たちの研究内容は、皆さんから見て「面白いものである」ということは、胸を張れます！研究の中身について、積極的な議論をできたら嬉しいな。